



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 21 年 10 月 11 日(日)
上町自主防災訓練 編

煙体験には参加できなかったが、煙害の恐怖は忘れられない。それは、昭和24年の能代第一次大火災である。住み慣れた生家の類焼寸前に涙しながら、近くの西福寺に避難したのも束の間、強風に煽られた巨大な火の波が寺院を襲う、その一瞬、建物からものすごい煙が吹き出し、目の前は真暗、呼吸困難になり大変な事態。もうだめかなと思ったが、咄嗟に「煙は地面との間に透きがある」と言われたことが閃き、家族の手を握り、地面を這うように呼吸を小さくして逃げ回った。その時、寺院が一気に燃え上がり、その明るさで決死の脱出を得た。今でもこの「低姿勢、微呼吸、濡れハンカチなどで鼻と口を覆う」の動作は煙害対策の基本であろうと思う。

講話で、渡辺千明先生の「ハザードマップとまちづくり」は大変参考になった。特に自分達近くの地域を縮小版に作れば、携帯用として便利で役立つのではとの提案には、さすがと思った。先生には毎年訓練の時に、いろいろアドバイスをいただき感謝多謝。

水田敏彦先生の「能代市の災害危険度とその対策」から、秋田県は地震の多い地域、能代も例外でなく地震は多く、能代断層帯が横たわっていると聴いて不気味な感じを覚えた。近年では男鹿地震、日本海中部地震があり、その自然災害を体験している。また、古くからの地震記録も丁寧に説明された。災害危険度を知る方法の一つとして、旧版地形図を利用する。例えば地盤の特性を知る…昔の田圃が今は宅地に。地盤と建物年代の関係。そのほか、倒壊する建物を予測する。積雪期地震時における道路の閉鎖、避難場所の状況など教わるが多かった。終わりに「生活を豊かにする防災へ、人との繋がりも災害対策」と言われたことが心に残った。

能登会長の企画配慮で今年五回目、これは災害への貴重な財産。今後も多数の参加を切望する。

文： 片村 専一



避難訓練と安否確認がスムーズに進む横で、煙体験用テントの準備が進んでいます。



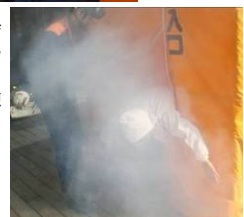
避難訓練中、2階テラスでは吹き出し準備が着々と進んでいます。



安否確認の後、消防の方から煙体験についての説明や注意を受けました。その後、一人ずつ白い煙がでるテントの中に入っていました。



初めての体験に待っている間はみんなドキドキです。中は何も見えず、訓練でよかったと出てきた時に安堵しました。





こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

非常食を試食した後の午後には本自治会初のAED講習会が行われ、強く興味をそそられて参加。ETC、AET、ABS、GDPなど、英3文字が身の回りに溢れているなか、この後、決して忘れてはならない用語になりそうなAEDとは「自動体外式除細動器」のことで、この機器はいわゆる心臓マヒになった人を蘇生させるために有効な装置で、特別な資格や技術を持たない一般の人でも扱えるものであるとのこと。

講習会はこのAEDの有効性、使い方、その効果などについて、若い男女3人の救急隊員による分かりやすい説明とAEDと人形を使った実演が行われ、参加者からも多くの質問が出されて、非常に意義のある学習の会であった。

「そこにAEDがあれば、そこに助けようとする人がいれば、助かる命があります」(日本心臓病財団ホームページより)まだ、上町町内のどこにも(公共施設にも)、AEDが設置されていないことが残念であること、また、AEDの操作の仕方を一人でも多くの自治会員が身につけることが急がれることなど、考えさせられた講習会であった。

初回からこの自主防災訓練に参加しているうちに、いつの間にか災害弱者(65歳以上の高齢者をいうとのこと)になってしまった。そのためか、どうも、学んだ防災の意識が身につかない、持続しない。また、災害に備えるための行動が伴わない。「災害は忘れたころにやってくる」というのに。

はてさて、どうなる、どうすれば？さらに、タチの悪いことには用事や他の行事にかまけて防災訓練に参加することも面倒になってくる。怠け心が起きてくる。私の老化は進み始めているようである。ほかの人たちはどうなんだろうと思う。

上町自治会が様々な方々や団体の協力を得ながら、お役所主導ではなく、自主的に防災訓練を始め、続けていることはとても意義深いことであると思う。そのすばらしい点は、自分たちの手で行政機関や諸団体、学校、他町内自治会などと結び、「つながり(ネットワーク)」をつくっているということである。そして、さらに大事なことは、自治会内では隣り近所同士で「つながり(グループ)」をつくり、そのグループによる安否確認活動を防災の基としていることではないかと思う。

防災活動のためだけでなく、安全・安心の「まちづくり」のためにも、さらにまた、さまざまな自治会活動を進めるのためにも、人と人が、町内の住民同士が「つながること」が、最も大切なことではないかという気がする。



今年も近隣自治会や興味のある多くの方々が参加されました。



対策を立てるためには敵(地震)と己(地域)を知りましょうという水田先生の防災講話。



消防本部の泉さんから能代の火災の現況や火災報知機設置について説明がありました。



人形を使ったわかりやすい説明に参加者全員が真剣に聞き入りました。こうした機会を増やしていただけるといいですね。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

私たちの自主防災訓練は、「つながること」の努力こそが、何にも増して必要であることを私たちに示してくれている。私たちはそのことを忘れずに、それを風化させないようにしたいものである。私たち上町の住人は、様々な意見や気持ちを出し合いながら「つながって」いきたい。そのような「まち」にになりたい、身を置きたいとおもうのである。今年の自主防災訓練に参加して、「弱者」(そうとばかり言ってははいられないのだけれど……)が抱いた、とりとめのない感想である。

文：相澤 紘一

去る10月11日(日)に行なわれた防災訓練に参加させていただき、今までの“誰かがやってくれる”“声をかけてもらったので行ってみよう”という考えでは現実に災害が発生した時に、即対応は不可能であることに気づかされました。

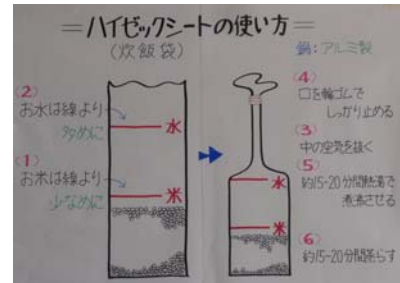
当日“常盤ときめき隊の朝市”に出店したので、10時30分頃に会場であるふれあいプラザ・サンピノへ行き、講話「地域全体で進める安心・安全のまちづくり」について渡辺千明先生、水田敏彦先生のお話を聞き、災害の怖さと共に正しい知識を身につけなければと痛烈に感じました。

昼食時になり、避難食をごちそうになりましたが、とてもおいしくてびっくりしました。ハイゼックスシートを使ってごはんができるので魔法のような気がしました。午後はAEDの講習と火災報知器の説明および実習を見せてもらい、実際に直面した時、果たして声をだして呼びかけたり、119番通報ができるだろうか・・・と考えさせられました。

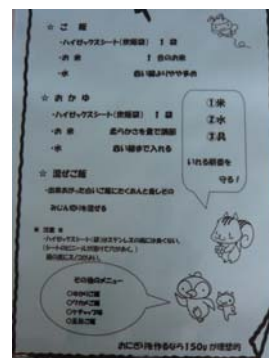
以上のことから防災について小規模の集まり、または地域対象に「防災訓練」を実施する必要があることに気がつきました。一人より近隣所、地域全体が体験することで連携プレーがスムーズに行なわれるだろうと思い地域単位で実施してみようと思いました。これも上町すみれ会のお誘いのおかげで、正しい知識が学ぶことはできたと心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

文：野村 マス

ハイゼックスシート(非常用炊飯袋)を利用した被災食作りを3年前の防災訓練で初めて実践して以来、毎年、温かい味噌汁とともにおいしい炊き込みご飯や白いご飯を提供することが、すみれ会にとっては定例となってきました。参加さ



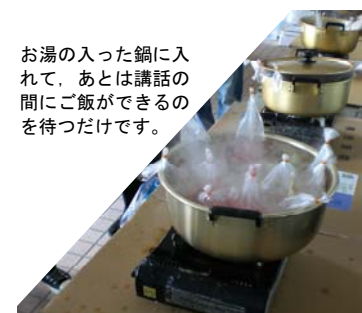
昨年好評だったので、今年も皆さんにわかりやすいよう、壁にも説明書を貼りました。



今年から各テーブルにもラミネート加工した説明書を置くようにしました。



消防の方、自治会の方、初対面の色々な方々が協力して昼食づくりを進めます。初参加の方は、こんな袋でご飯が炊けるの？と半身半疑です。



お湯の入った鍋に入れて、あとは講話の間にご飯ができるのを待つだけです。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

れた方々が、作り方を熱心に真剣な様子で習っているというのもいつものことです。4回目となった今年も約60名の参加者がシートでの炊飯を体験したので、これまでに、ざっと数えて300名近くの方々に知ってもらったこととなります。

さらに、今年はいまだに次の3団体と交流し、この被災食作りを知ってもらうためにすみれ会が出向きました。非常食に相当のリーダーシップを期待される市の婦人防災クラブ員や消防団関係者(防火クラブ交流会)、子育て中の若いお母さんたち(つどいの広場 ぶらんこ)、そして、上町自治会の倍以上の世帯数を抱える自治会のご婦人たち(新柳町第二自治会婦人部)と…。すみれ会の活動が着実に被災食作りの輪を広げています。被災が現実のものとなった時を想像すると、これがいかに大事かと思うのです。

ところで、今回の味噌汁には、常盤から届いた野菜が使用されました。被災して地元ではどうしようもないとき、隔れた土地の方々の支援が得られることは大事です。そんな思いもあって、いつもはあり合せの持ち寄りでしたが、あえて、ネットワークの同志、常盤ときめき隊にお願いしました。おかげで、今回の炊き出しも大好評、大成功でした。

唯一、渡辺先生に指摘を受けたのがトレイでテーブルまで味噌汁を運んであげないこと。混雑を予想して機転を利かせたつもりが、被災時は必要な人が並ぶのだとか、なるほど。

被災の現実には過酷で極限の精神状態に追い込まれるのでしょう。今の自分には想像を超えたものですが、こうした活動を通じて少しでも防災の意識を維持していきたいと思います。

文：本庄 龍子

■プログラム

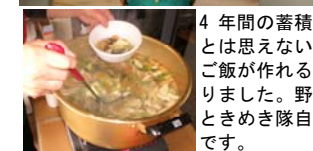
- ・ブロックごとの避難訓練
- ・煙体験： 能代山本広域市町村圏組合消防本部
- ・開会挨拶： 上町自治会 能登祐子さん
 - ・趣旨説明： 秋田県立大学木材高度加工研究所 渡辺千明さん
- ・昼食準備： 上町すみれ会
 - ハイゼックスシートによる避難食づくりと味噌汁炊き出し
- ・防災講話： 秋田県立大学木材高度加工研究所
 - 渡辺千明さん「ハザードマップとまちづくり」
 - 秋田工業高等専門学校 水田敏彦さん
 - 「能代市の災害危険度とその対策」
- ・昼食
- ・AED講習と火災報知器の説明・推進
 - 能代山本広域市町村圏組合消防本部
- ・閉会挨拶： 上町自治会 相澤紘一さん



防災講話中に炊き上がったご飯は、みんなで袋から出し、それぞれお皿に盛りつけます。働かざる者喰うべからず！です。



温かい食事をみんなで楽しく！災害時に忘れたくないことの一つです。



4年間の蓄積で非常食とは思えない美味しいご飯が作れるようになりました。野菜は常盤ときめき隊自慢の品々です。



NHK や北羽新報さん、北部市民サポートセンターの取材がありました。多くの方に興味をもっていただき、こうした市民主体の取り組みが広がっていくといいですね。